

令和6年度宇都宮市立上河内中学校 学校評価書

1 教育目標（目指す生徒像含む）

人間尊重の理念を基調とし、豊かな情操を備え、社会の変化に向き合いながら、常に目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持ち続け、他と協働して粘り強く物事に取り組む心身ともに健康な生徒を育成する。 【校是：よく学び よく鍛えよ】

☆ めざす生徒像

- ・ 学び鍛える生徒
- ・ 自他を尊ぶ生徒
- ・ 気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・ 愛と情熱にあふれる教師
- ・ 研ぎあう教師
- ・ 実践する教師

☆ めざす学校像

- ・ 楽しく学びあえる学校
- ・ 協に伸びる学校
- ・ 信頼される学校

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

- （１）「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を進めながら、生徒が生涯にわたって成長し続けるための基盤となる、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成に努める。
- （２）全教職員が、強い使命感と情熱をもって学校経営に参画し、学校教育目標の達成に向けて取り組むことで、生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、「地域とともにある学校づくり」に努める。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- （１）「確かな学力」を育むことをめざして
 - ① 学力調査等を活用した現状分析と改善策の検討並びに実践
 - ② 習熟度別学習等による生徒の実状に即した指導・支援の推進
 - ③ 家庭学習の習慣化に向けた指導・支援の強化
 - ④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
 - ⑤ デジタル機器の効果的な活用（１人１台端末、ＡＩドリル等）
- （２）「豊かな心」を育むことをめざして
 - ① 道徳科の指導を中核とした道徳教育（宮っ子心の教育）の充実
 - ② 体験・ボランティア活動や読書活動等を通じた豊かな心や創造性の涵養
 - ③ 委員会活動や学校行事を通じた自己有用感や自己肯定感の涵養
- （３）「健やかな体」を育むこと（健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現）をめざして
 - ① 健康診断や新体力テスト等による現状把握・改善と体育に関する指導の充実に向けた取組の推進
 - ② 学校栄養職員や養護教諭の参画を通じた食育や保健指導の更なる充実と推進
 - ③ 交通安全教室や避難（防災）訓練等を通じた安全に関する指導の充実
 - ④ 進んで運動に取り組む環境づくりの推進と性・薬物等に関する指導の充実（心身の健康の保持増進）
- （４）「教職員の資質・能力」と「学校のチーム力」の向上をめざして
 - ① ○ＪＴ・研修等を通じた教師の授業力向上に向けた取組の継続
 - ② 情報共有の推進と共通理解・同歩調による指導の充実
 - ③ 校務のデジタル化等を通じた業務の効率化及び適正な在校等時間を意識した「働き方改革」の推進（時間外在校等時間の削減）
- （５）「未来を生き抜く力」を養うことをめざして
 - ① １人１台端末の活用を通じた情報活用能力の定着とデジタル・シティズンシップ教育の推進（情報化・グローバル化社会への対応）
 - ② 宇都宮学の学習を通じた地域への愛情と誇りをもてるような指導の充実
 - ③ 地域教育資源の活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
 - ④ ＡＬＴの授業参画を通じた英語を使ったコミュニケーション力の育成及び異文化理解・尊重の推進
- （６）小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
 - ① 地域学校園で作成した小中一貫教育カリキュラムの確実な実践
 - ② 発達の段階に応じた学業指導の充実
 - ③ 地域学校園内の児童生徒交流及び教職員間の情報交換等の充実

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこく、たくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （１）基本方針
教育基本法・学校教育法等の法令及び学習指導要領に基づき、上河内特有の地域性や生徒、学校の実態等を考慮し、生徒の心身の発達段階に応じた編成を行う。
- （２）留意点
 - ① 学校の教育目標や「めざす生徒像」、各教科の目標・ねらいとの整合性を図る。
 - ② 学習指導要領で示されている各教科等の授業時数を確保する。
 - ③ 「総合的な学習の時間」において、教科等横断的な視点に立った追究活動の推進や発表をめざした学習を進める。

- ④ 学校評価との関連付けを図り、PDCAサイクルを機能させたカリキュラムマネジメントを行う。
- ⑤ 地域協議会等との連携を図るとともに「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（１）学校運営

- ① 生徒一人一人を尊重する、特別支援教育の視点を生かした個に応じた支援の充実
- ・ いじめ根絶に向けたアンケート実施（早期発見）と早期対応
 - ・ ステップルームの利用促進による不登校生徒への適切な支援
- ② 教職員相互の融和・協働による組織の活性化及び教職員の負担軽減
- ・ 業務内容の精選・効率化の促進等による、在校等時間の適正化及び時間外在校等時間の削減
 - ・ 業務改善の意識高揚及び「語り場」の導入
 - ・ リフレッシュデー等の効果的な促進
- ③ 「地域とともにある学校」づくりをめざし、地域と連携・協働した取組の充実・推進
- ・ 部活動指導（休日）の地域移行に向けた協議会設置検討会議の実施
 - ・ 生徒の、地域行事等への積極的な参加及び参画の促進

（２）学習指導

- ① 確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫
- ・ 一人一台端末の効果的な活用
- ② 家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化
- ・ eライブラリーを利用した家庭学習の確立
- ③ 「学びに向かう集団」づくりの推進
- ・ 地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導

（３）児童生徒指導

- ① 基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成
- ・ 生徒会活動（話し合い）を通じた自主的・自発的活動の意図的な設定
- ② 組織的な対応による、一人ひとりに寄り添った支援の充実
- ・ 生徒指導係会や教育相談係会・特別支援教育部会における情報共有と対策等の検討
- ③ 「宮っ子心の教育」の推進
- ・ 体験活動・読書活動、及び道徳科の授業の充実

（４）健康（体力・保健・食・安全）

- ① 給食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育指導の推進
- ・ お弁当の日、地域食材を生かした給食メニュー設定（行事食・地産地消等）
 - ・ 小中で連携した指導（食事マナー・衛生等）
- ② 検診結果を踏まえた地域学校園として連携した保健指導の充実
- ・ 視力改善（維持）に向けた指導（デジタル機器による影響への対策等）
- ③ 地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化
- ・ 保健体育科、部活動等における基礎体力の向上を目指した取組

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所には下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①本時のめあてを分かりやすく具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りをさせる。 ②○必要に応じて、授業の中で話し合い活動を取り入れるなど、主体的で対話的な学習が進められるような学習形態を工夫する。 ③○家庭学習の習慣化と内容の充実を図るために、取り組み方を図書委員や放送委員と連携して示したり、ゲートル・クラスルームに提示したりして啓発する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.8%で、目標値を7.8ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・本時のめあてを分かりやすく具体的に提示し、見通しをもたせる授業を展開するとともに、めあてに対する振り返りを通して、学習の定着状況を自覚させる。 ・必要に応じて、授業の中で話し合いを取り入れるなど、主体的・対話的な学習が進められるような活動・形態を工夫する。 ・家庭学習の習慣化と内容の充実を図るために、取り組み方を図書委員や放送委員と連携して示したりして啓発する。

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A2 生徒は、思いやりの心 をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、誰に対しても、思いや りの心をもって優しく接して いる」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○受容・共感・傾聴等の大切さにつ いて指導する。 ②○相手に対してどのように伝わる かなど、相手の心情を考えて話すよう 意識させる。 ③生徒会主催のいじめゼロ集会など を通して、生徒の思いやりに対する意 識を高める。 ④○道徳の授業や日々の生活におい て、時と場に応じた言動や相手への思 いやりについて生徒に考えさせ、意識 を高めさせる。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.5%で、目標値 を 10.5 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校生活全体を通し、人との関わり 方、よりよいコミュニケーションの取り 方を考えさせる指導の充実を図る。
	A3 生徒は、目標に向かっ てあきらめずに、粘り強 く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、目標に向かってあき らめずに、粘り強く取り組ん でいる」 ⇒生徒肯定回答 80%	①各学級で、1年間の学級目標を設定 し、定期的に振り返り、目標に向かっ て取り組むことを意識させ、達成感を 味わわせる。 ②定期テストにおいて、テスト計画表 を作成させる際に、数値目標など具体 的な目標を設定させ、計画的に取り組 ませる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 84.2%で、目標値 を 4.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や学習の節目などの機会 で振り返りを重視し、自己指導能力の育成 に努める。
1ー(3) 健康で安全 な生活を実 現する力を 育む教育の 推進	A4 生徒は、健康や安全に 気を付けて生活してい る。 【数値指標】全体アンケート 「私は、健康や安全に気を付 けて生活している。 ⇒生徒肯定回答 80%	①保健だよりや健康委員会による活 動を通して、健康な生活について啓発 をする。 ②○新体力テストの結果を基に、不足 している基礎体力作りに取り組む。体 育の授業では計画的に補強運動を取 り入れ運動量の増加を目指す。 ③自転車通学の生徒が多いので、登校 指導や自転車点検、交通安全教室な どの活動を通して、自転車の正しい乗 り方、交通安全の意識を高める指導を徹 底する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 88.7%で、目標値 を 8.7 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・交通安全について、より意識を高めら れるよう交通安全教室や委員会活動 を通して指導していく。 ・健康に生きるための体力の重要性に ついて、授業や委員会活動で指導する。
1ー(4) 将来への希 望と協働す る力を育む 教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや 成長を実感し、協力して 生活をよりよくしようと している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、自分の良さや考えを 生かしたり、周りと協力し合 ったりして、進んで生活をよ りよくしようとしている。 ⇒生徒肯定回答 80%	①学級活動の時間を用いてキャリア パスポートを活用したり、自己の活動 を振り返らせたりすることにより、新 たな学習や生活への意欲につなげ、将 来の生き方を考えさせる。 ②各学年で自らの個性を把握し、把握 した個性を生かすという視点で進路 指導を行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 85.6%で、目標値 を 5.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学級活動の時間を用いてキャリアパ スポートを活用したり、自己の活動を 振り返らせたりすることにより、新た な学習や生活への意欲につなげ、将 来の生き方を考えさせる。 ・各行事等を通して、自らの個性を 把握し、把握した個性を伸ばしてい く指導を行う。
2ー(1) グローバル 社会に主体 的に向き合 い、郷土愛 を醸成する 教育の推進	A6 生徒は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、英語の授業や ALT と の交流の際に、英語を使って コミュニケーションしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①○英語による授業を行う。また、教 員(ALTを含む)との対話活動や、生 徒がペアになって自分の考えや気持 ちを英語で伝え合う活動など、生徒 が発話する場面を多く設ける。 ②○チームティーチングの授業で、T1 と T2 が英語でのやりとりのモデルを 多く見せることにより、生徒に自然 とやりとりの仕方を身に付けさせる。 ③ICT アプリを活用することで、より 多角的にコミュニケーション活動に 取り組ませる。	A	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 63.1%で、目標値 を 16.9 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・生徒がペアになって自分の考えや気 持ちを英語で伝え合う活動や、タブ レットを媒体としてコミュニケーション する活動をより行うなど、生徒が発 話する場面を多く設ける。 ・コミュニケーションの基礎・基本と なる表現を繰り返し学習させること で、生徒のコミュニケーション技能 をより定着させる。 ・ALT が給食の時間に生徒と食事を しながら会話を楽しむ機会を設ける。

	A7 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「私は、宇都宮の良さをしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①地域の良さをを知るために、地域の人と一緒にって行事に参加することにより「郷土愛」を育ませる。 ②総合的な学習の時間において、宇都宮学に取り組むことで郷土の良さを再認識させる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 87.4%で、目標値を 7.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・地域の良さをを知るために、地域の人と一緒にって行事に参加することにより「郷土愛」を育ませる。 ・総合的な学習の時間において、宇都宮学に取り組むことで郷土の良さを再認識させる。
2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「私は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒生徒肯定回答 80%	①各教科や総合的な学習の時間において、タブレットやプレゼンテーションソフトを利用して、調べ学習や発表に取り組ませる。 ②国語科等の調べ学習において、積極的に図書館を利用する。また、他教科においても、授業で図書の活用を進める。 ③クロムブックの様々な学習用アプリケーションを紹介し、活用させる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.5%で、目標値を 2.5 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・各教科や総合的な学習の時間において、プレゼンテーションソフトを利用して、調べ学習や発表に取り組ませる。 ・国語科・社会科・総合的な学習の時間等の調べ学習において、積極的に図書や新聞を利用する。 ・クロムブックのeライブラリーなどの学習用アプリケーションを紹介し、活用させる。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「私は、環境問題や防災等の持続可能な社会について、関心をもっている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①生徒会専門委員会を通して、節電やリサイクルによる再利用についての呼びかけや、回収活動を実施することで、生徒の関心を高めさせる。 ②授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」や「SDGs」について理解を深めさせ、身近なものに関連させる。 ③避難訓練等を通して、火災や自然災害の対策を身に付けさせ、自ら考え行動する「生きる力」の育成を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 73.0%で、目標値を 7.0 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・生徒会専門委員会による、節電やリサイクルについての呼びかけ、回収活動、広報活動を実施することで、自分は何ができるか考えを深めさせ、生徒の関心を高める。 ・授業や学校行事を通して、「持続可能な社会」や「SDGs」について理解を深めさせ、身近なものに関連させる。 ・避難訓練等を通して、火災や自然災害の対応を身に付けさせ、自ら考え行動する「生きる力」の育成を図る。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員肯定回答 90%	①特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、校内支援委員会を実施し、共通理解を図る。 ②生徒指導係会や教育相談係会等を定期的に行い、生徒に対する支援の共通理解を図る。 ③SCやMS等と連携を図り、ステップルームの利用など、個に応じた対応に心掛ける。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100.0%で、目標値を 10.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒・保護者との連絡を密に取り、個に応じた対応ができるよう連携を図る。 ・誰にでもわかりやすい板書計画や授業展開の工夫を図る。
3- (2) いじめ・不 登校対策の 充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇休み時間の巡回指導や教育相談、嫌な思いアンケートを活用して、いじめを早期に発見する取り組みに努める。また、生徒の不適切な言動に対して細かな声掛けを行う。 ②〇いじめに対しては、いじめ対策委員会で組織的かつ迅速に対応する。 ③〇保護者会やHP、各種だより等で取組を周知する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.0%で、目標値を 5.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・日々の指導や、教育相談などのいじめを未然に防ぐ取組を継続し、早期発見、早期対応を図るとともに、各種便りや学校ホームページなどを通して学校の取組を伝え、保護者や地域に対する理解を促進する。

	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、生徒がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇教育相談係会において、不登校傾向の生徒について、SC、MSと連携した対応を検討し、全教職員が共通理解の下、支援に当たる。 ②〇Q-Uの結果や日記指導（宮っ子ダイアリー）、エンカウンター等を実施することで、学級集団としての状態や、生徒一人一人の意欲や満足感を把握し、学級経営に生かす。 ③〇自尊感情を高めるような声掛けを全教職員で実施する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.6%で、目標値を 14.6 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・居場所づくりと所属意識の向上に努め、その取組を職員間で共有する。実態に応じてエンカウンターを実施する。 ・引き続き自尊感情を高めることができるよう、生徒一人一人への声掛けを増やす。
3-(3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、困ったときに相談に乗ってくれたり、問題を解決しようとしていたりして、私たちが楽しく学校生活を送れるようにしている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①学校行事や生徒会活動が感動ある活動になるように、生徒が主体的に企画・運営・参加できるように指導する。 ②生徒が自ら考える機会を数多くつくり自主的活動を充実させ、生徒一人一人が達成感や自己肯定感を得られるような集団づくりを推進する。 ③エンカウンター等の人間関係を円滑にさせる取組を充実させるなど、居心地の良い学級づくりを推進する。 ④多様な教育的ニーズを意識し、生徒や保護者への適切な支援に心掛ける。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 95.0%で、目標値を 15.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き生徒主体の教育活動や居心地の良い学級づくりに努め、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、個性を大切にできるよう指導する。
3-(4) 多様な教育的 ニーズへの 対応の強化			
4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方の授業は分りやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒生徒肯定回答 80%	①TTや習熟度別学習などの少人数指導の工夫により基礎・基本の定着を図り、本時のめあてを明示し振り返りを記入させることにより、「分かる授業・できる授業」を目指し、指導法の改善に努める。 ②〇「表現力を高め、自分の考えを深め合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 92.8%で、目標値を 12.8%上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、TTや習熟度別学習などの少人数指導の工夫により基礎・基本の定着を図る。 ・「分かる授業・できる授業」を目指し、指導主事から学ぶことなどを通し、指導法の改善に努める。 ・「表現力を高め、自分の考えを深め合う授業」をテーマとした「一人一授業」を実践し、個々の教員の授業力向上を図る。
4-(2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員肯定回答 80%	①教員のそれぞれの得意分野を共有する機会を設け、お互いの資質の向上を図る。 ②各種委員会を定期的に開催し、リーダーを中心にそれぞれの教育活動推進と次年度に向けた検証を行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 96.3%で、目標値を 16.3 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・職員のコミュニケーション力を高め、全体で共有したことを確認しながら業務を遂行する。 ・教職員がチームとして機能する体制を確立する。 ・各種部会・委員会を定期的に開催し、リーダーを中心にそれぞれが機能する体制づくりに努める。
4-(3) 学校における 働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員肯定回答 80%	①学校経営方針に基づき教育活動を実践するとともに、教職員が担う業務の明確化・適正化を検証する。 ②職員会議や校務運営委員会での協議と報告を分け、会議等の効率化・適正化を図り、会議の勤務時間内終了に努める。 ③宇都宮市部活動の指針に基づき、各部活動が適正な計画を立案し、望ましい部活動の在り方を実践する。 ④業務のICT化をより進められるよう関係機関に働きかける。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 70.4%で、目標値を 9.6 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・職員会議や校務運営委員会での協議と報告を分け、会議等の効率化・適正化を図り、会議の勤務時間内終了に努める。 ・業務の効率化が可能となるシステムの導入について関係機関に働きかける。

5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、地域学校園の小学 生や中学生、先生と、授業や 行事、掲示物などで交流する 活動を行っている」 ⇒生徒肯定回答 80%	①〇地域学校園内小中学校間の連絡・ 調整等を密に行い、小中合同あいさつ 運動や進学先中学校訪問等における 活動の充実を図る。 ②〇小中一貫教育においての「『ゆず っ子』の学びの5つの約束」を意識さ せて学習に取り組ませる。 ③〇図書館の図書紹介ポップでの小 中交流を生徒に広く周知する。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は81.5%で、目標値 を1.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・「『ゆずっ子』の学びの5つの約束」の 内容の見直しと周知の仕方の工夫をす る。 ・現在行っている取組の周知の仕方を 工夫する。
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業 等と連携・協力して、教育活 動や学校運営の充実を図って いる」 ⇒保護者肯定回答 80%	①家庭や上河内中学校地域協議会な どと連携し、地域学校園の諸活動と関 連させながら、農園活動や読み聞かせ などの地域人材を活用した諸活動を 推進する。 ②〇望ましい礼儀やマナーを育成す るため、あいさつ運動や場に応じた適 切な言葉づかいの標語募集等の取組 や日常的な指導を、地域学校園内小・ 中学校及び地域協議会が連携・協力し て行う。 ③キャリア教育、情報モラル教室や交 通安全教室において地域の方や企業 等と連携・協力し、教育活動の充実を 図る。 ④活動を生徒が振り返る際に、地域等 との関連や関わりについて考える時 間を設定する。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は85.5%で、目標 値を5.5ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・例えば、特産品の“ゆず”に係ること で地域に関わる活動を行うなど、地域連 携を図る。 ・地域協議会との一層の連携を図り、地 域未来塾・地域未来会議等の活動を継続 する。 ・キャリア教育等で、地域の方や企業等 と係る活動を計画する。
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全 に配慮した環境づくりに努め ている」 ⇒保護者肯定的回答 80%	①安全指導係を中心に全教職員で、校 内安全点検を定期的に実施し、校内の 安全確保に努める。 ②管理職や事務、学校業務担当（機動 班）が連携を図り、施設等の迅速な修 繕に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は88.1%で、目標 値を8.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・定期点検結果の情報共有、管理職への 迅速な報告、機動班の積極的活用によ り、利用者の安全・安心を重視した教育 環境を引き続き整える。
6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】全体アンケート 「私は、授業（授業準備も含 む）や業務の改善に、デジタル 機器を積極的に活用してい る」 ⇒教職員肯定回答 80%以上	①ICT機器を活用するために校内 研修等を行い、スキルアップを図る。 ②授業担当と司書が連携し、クラスル ームに参考資料リストを載せ、授業で 紹介する。（パスファインダー）	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は92.6%で、目標 値を12.6ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・ICT機器を活用するために校内研 修等を行い、スキルアップを図る。 ・授業担当と司書が連携し、クラスル ームに参考資料リストを載せ、授業で紹介 する。（パスファインダー）
小・中 学 校、地 域 学 校 共 通、本 校 の 特 色・ 課 題 等	B1 生徒は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、時と場に応じたあい さつをしている」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇生徒会や教職員・PTAによるあい さつ運動を活発に行い、指導の充実を 図る。 ②〇教職員が率先してあいさつをす ることで、学校全体があいさつをする 雰囲気高める。 ③〇あいさつ標語の募集を行い、率先 してあいさつをする意識を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.4%で、目標値 を6.4ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・生徒会を中心としたあいさつ運動や、 地域学校園協議会と連携した適切な言 葉遣いの指導を継続する。 ・日頃からあいさつの大切さについて 考えさせるなど、時と場に応じたあいさ つができるよう指導の充実を努める。

	B 2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活している。」 ⇒生徒肯定回答 90%	①〇学級活動や生徒会活動、学校行事を通して生徒と対話のできる関係と雰囲気づくりを推進し、マナーを守って生活することの大切さを指導する。 ②〇5分前行動、2分前着席や指名・指示されたときの返事を徹底する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.2%で、目標値を 3.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・あらゆる場面において、きまりやマナーを守って生活することの大切さについて考えさせるなど、規範意識を高める指導の充実に努める。 ・自分の意志できまりやマナーを守ろうとする自己指導能力を育成する。 ・道徳の授業において、規範意識を高める教材を取り上げ、自らの言動を振り返って考える機会を設定する。
地域学校共通	B 3 生徒は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加し、交流している。 【数値指標】全体アンケート「私は、上河内地区のお祭り、催事、作品募集などの地域行事に参加している。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①生徒会活動として、施設交流や情報発信を行うとともに、生徒が地区の催事にボランティアとして参加したり、作品を出品したりするなど、地域団体と連携する。 ②〇郷土愛や愛国心を育てるため、生徒に梵天祭等への参加を促すとともに羽黒山等の清掃活動「羽黒山ボランティア」等を実施する。 ③専門委員会活動で行った地域との交流を生徒会朝会やお昼の校内放送で発信する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 77.9%で、目標値を 2.1 ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・施設訪問の実施を検討する。 ・羽黒山ボランティアとしては、羽黒山清掃にとどまらず、地域の清掃活動として位置付ける。 ・専門委員会ごとに地域行事についての取組を考えさせ、生徒会朝会を利用して発信する機会を設定する。 ・地域との交流を実施した際には、各種便りや学校ホームページ等で発信する。
本校の特色・課題等	B 4 生徒は、総合的な学習の時間等では、学んだ知識や技能を生かし、協力してまとめたり、分かりやすく発表したりすることができている。 【数値指標】全体アンケート「私は、総合的な学習の時間では、学んだ知識や技能を生かし、協力してまとめ、分かりやすく発表することができた。」 ⇒生徒肯定回答 80%	①調べ学習（ＩＣＴ機器や学校図書館等の利活用）に必要な、情報を集めたり活用したりする技能を高めさせる。 ②グループ内で意見を共有するために、canva 等のアプリケーションを活用させる。 ③協働する学習を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。 ④様々な教科で自分の考え等を発表する活動を行い、発表力を高めさせる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 82.9%で、目標値を 2.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・調べ学習（ＩＣＴ機器や学校図書館等の利活用）に必要な、情報を集めたり活用したりする技能を高めさせる。 ・グループ内で意見を共有するために、PADLED 等のアプリケーションを活用させる。 ・協働する学習を通して、コミュニケーション能力を高めさせる。 ・様々な教科で自分の考え等を発表する活動を行い、発表力を高めさせる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に〇印または該当箇所に下線を付ける。

●数値指標から

- 全 24 項目中、19 項目で数値指標を達成した。【達成率 79.2%】
- 達成できなかった項目は次の通りである。

A 6	英語でのコミュニケーション	生徒 63.1%	目標値－16.9 ポイント
A 8	デジタル機器や図書等の活用	生徒 77.5%	目標値－2.5 ポイント
A 9	持続可能な社会への関心	生徒 73.0%	目標値－7.0 ポイント
A 16	業務の効率化	教職員 70.4%	目標値－9.6 ポイント
B 3	地域行事への参加	生徒 77.9%	目標値－2.1 ポイント

●経年比較から

- 生徒の肯定的回答率は、【+0.8～－8.5】の間で変動した。
- 保護者の肯定的回答率は、【+11.3～－5.3】の間で変動した。
- 上昇した項目（値の大きいもの）

生徒	B 2 「きまり・マナー」	17 「小中一貫教育・地域学校園」
保護者	A 8 「デジタル機器・図書等」	A 13 「活気・明るくいいきとした雰囲気」

4 下降した項目（値の大きいもの）

生徒 A 9 「持続可能な社会への関心」 A 6 「英語でのコミュニケーション」

保護者 B 1 「あいさつ」 A 4 「健康・安全」

●今年度の重点目標から

1 学校運営

- ・ A 1 0 「生徒の実態に応じた適切な支援」：教職員 1 0 0 %
- ・ A 1 6 「業務の効率化」：教職員 7 0 . 4 %と昨年度と比較して 1 3 . 8 ポイント下がり、目標値を 9 . 6 ポイント下回った。
- ・ A 1 7 「小中一貫・地域学校園」：生徒 8 1 . 5 %・保護者 8 2 . 1 %・地域住民 8 5 . 7 %
生徒の肯定的回答率は、昨年度と比較して 0 . 6 ポイント上がり、目標値を 1 . 5 ポイント上回った。
- ・ A 1 8 「家庭・地域・企業等との連携・協力」：生徒 8 1 . 5 %・保護者 8 5 . 5 %・地域住民 8 5 . 7 %
- ・ B 3 「地域行事への参加」：生徒 7 7 . 9 %・保護者 9 2 . 9 %・地域住民 8 5 . 7 %
生徒の肯定的回答率は、昨年度と比較して 4 . 2 ポイント下がり、目標値を 2 . 1 ポイント下回った。

「業務の効率化」については、職員会議での連絡と協議を分けて整理したり、事前に資料を提供したりすることなどにより、会議の効率化を図り、勤務時間内に会議を終了できるよう努めた。

「家庭・地域・企業等との連携・協力」については、地域学校園内小中学校間の連絡・調整等を密に行いながら、小中合同あいさつ運動や、ゆずっこ写真展、進学先中学校訪問などの実施に努めた。また、今年度は 1 学年において、各種企業の協力のもと、生徒たちが様々な職業に就く方々の話を聞く「職業人に学ぶ」を計画・実施することができた。

2 学習指導

- ・ A 1 「学習への主体的な取組」：生徒 8 7 . 8 %・保護者 8 2 . 1 %
- ・ A 6 「英語でのコミュニケーション」：生徒 6 3 . 1 %
昨年度と比較して 7 . 5 ポイント下がり、目標値を 1 6 . 9 %下回った。
- ・ A 8 「デジタル機器や図書等の活用」：生徒 7 7 . 5 %・保護者 8 5 . 3 %
生徒の肯定的回答率は、昨年度と同率であったが、目標値を 2 . 5 ポイント下回った。
一方、保護者の肯定的回答率は、昨年度と比較して 1 1 . 3 ポイント上昇した。
- ・ A 9 「持続可能な社会への関心」：生徒 7 3 . 0 %
昨年度と比較して 8 . 5 ポイント下がり、目標値を 7 . 0 ポイント下回った。
- ・ A 1 4 「分かる授業、きめ細かな指導」：生徒 9 2 . 8 %・保護者 7 5 . 8 %

授業において、明確な課題表示や、導入・発問・まとめ・振り返りの工夫、ICT 機器や図書の効果的な活用、TT（ティームティーチング）や習熟度別学習の実施などにより、分かる授業の展開に努めた。

3 生徒指導

- ・ A 2 「思いやり」：生徒 9 0 . 5 %・保護者 9 0 . 6 %・地域住民 8 3 . 3 %・地域住民 8 3 . 3 %
- ・ A 3 「目標・あきらめない・粘り強さ」：生徒 8 4 . 2 %・保護者 8 1 . 9 %
- ・ A 1 1 「いじめ対策」：生徒 9 5 . 0 %・保護者 7 2 . 9 %・地域住民 6 6 . 7 %
- ・ A 1 2 「認め励まし合う学級経営」：生徒 9 4 . 6 %・保護者 8 2 . 3 %
- ・ A 1 3 「一人一人が大切にされ活気がありいきいきしている」：生徒 9 5 . 0 %・保護者 8 1 . 6 %・地域住民 1 0 0 %
保護者の肯定的回答率は、昨年度と比べ、6 . 9 ポイント上昇した。
- ・ B 1 「あいさつ」：生徒 9 6 . 4 %・保護者 8 5 . 8 %・地域住民 8 3 . 3 %
保護者の肯定的回答率は昨年度と比較して 5 . 3 ポイント下がった。
- ・ B 2 「きまりやマナー」：生徒 9 3 . 2 %・保護者 8 6 . 6 %・地域住民 7 1 . 4 %
生徒の肯定的回答率は昨年度と比較して 0 . 8 ポイント上昇し、目標値を 3 . 2 ポイント上回った。
一方、地域住民の肯定的回答率は、昨年度と比較して 8 . 6 ポイント下がった。

学校行事や生徒会活動が生徒主体の感動ある行事になるよう指導・支援するとともに、学級が居心地のよいものになるよう、学年主任や学級担任を中心として、個に応じたきめ細かな生徒指導・教育相談に努めた。

4 健康（体力・保健・食・安全）

・A4「健康や安全」：生徒88.7%・保護者79.7%・地域住民88.7%

保護者の肯定的回答は昨年度と比較して－2.2ポイント下回った。

避難訓練や不審者訓練、交通安全教室などを計画的に実施し、安全教育の推進に努めた。また、健康の保持増進が図られるよう、教職員共通理解のもと日々の保健指導や給食指導に取り組むとともに、保健だよりや給食だよりを通して家庭との連携にも努めた。

7 学校関係者評価

○ 地域行事への参加

・文化交流祭では吹奏楽部がいきいきと演奏してくれたり、生徒のみなさんが書道や絵画作品などをたくさん出品してくれたりするなど、地域行事に積極的に参加していただいているように感じる。

・「梵天祭り」や「どんど焼き」など、地域の伝統行事に中学生が様々な形で関われると、次の世代につながっていくと思われる。

・「赤い羽街頭募金活動」では、中学生の募金箱にたくさんの募金が寄せられており、おかげで多くの募金が集まった。

・地域の活性化のためには、地域の行事などに子供たちが参加してくれることが望ましいが、地域の行事は土日祝日などに開催されることが多く、子供たちの参加に伴い先生方に負担がかかっているように感じる。先生方の負担を少しでも軽減できるような仕組みづくりが必要である。

○ 持続可能な社会への関心

・SDGsへの取組として今年度「NPO法人なないろ」と地域協議会との協賛で地区市民センターを会場として「おやつカフェ」を実施したように、学校単独では難しい部分を地域で継続してサポートしていきたい。

○ 英語でのコミュニケーション

・授業中のみならず、日常の至る所で英語を使う機会を増やしていただけたらよい。

○ あいさつ・きまり・マナー

・道を通りかかる生徒はみな元気に挨拶をしてくれる。また、ヘルメットをきちんとつけ、交通マナーをしっかりと守って登下校している様子が見られる。

・「あいさつ運動」に参加したが、どの生徒もきちんとあいさつをしていて、生徒の心がけと先生方の日頃のご指導に感謝している。

○ デジタル機器や図書等の等の活用

・家庭でも常に一人一台端末を使って学習しているように見えるが、生徒はまだまだ活用が足りないと回答しているようで、意識の差に驚いている。デジタル機器や図書等が効果的に活用されるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

■ 1 学校運営

①「生徒一人一人を大切に、個に応じた支援の充実」

・全生徒が参画したり、異学年が交流したりする活動や、生徒会が中心となって企画・運営にあたる生徒会企画行事などを充実させるとともに、認め励ます教育をより一層推進することにより、生徒の積極性や自己有用感、協調性や思いやりの心の育成に努める。

・組織的な対応により、個別での支援が必要な生徒にはステップルーム等別室で対応するなど、一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るとともに、保護者との連携・情報共有に努める。

②「組織の活性化・教職員の負担軽減」

・今年度の成果と課題を踏まえた上で、各種行事や計画を見直したり精選したりすることなどにより、業務改善を促進する。

③「地域とともにある学校づくり」

○家庭や地域協議会、まちづくり協議会や企業等と連携しながら、職場体験学習、食農体験、読み聞かせ、地域未来塾、地域未来会議などの充実を図るとともに、梵天祭や上河内ふれあいまつりといった伝統ある地域行事への参加を促進するなど、「地域とともにある学校づくり」を推進する。

・学校の教育活動について、学校の取組が伝わるよう、学校だよりやホームページ等を通しての情報発信を心がける。

■ 2 学習指導

①「確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫」

- ・生徒がわかったこと・できたことを実感できる授業を目指し、一人一授業公開による校内での研修等を通して、それぞれの教員が授業力向上に努める。また、「英語でのコミュニケーション」については、やり取りを中心とした英語の授業を展開することはもとより、ALT をさらに活用し、休み時間や給食時など、日常的に生きた英語に触れる機会を充実させることにより、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせるとともに、主体的に英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努める。
- ・各教科等の授業や生徒会活動、学校行事において、「持続可能な社会」や「SDGs」の推進に向けて、自分たちができることを考え、実践する活動の充実に努める。
- ・各教科や総合的な学習の時間における調べ学習・発表等において、様々なプレゼンテーションソフトや学校図書館の資料・新聞等を効果的に活用させ、情報活用能力（デジタル・シティズンシップ）を育成する。

②「家庭学習の習慣化」

- 地域学校園「学力向上部会と連携を図りながら、生徒が意欲的に家庭学習に取り組めるよう指導する。

③「学びに向かう集団づくり」

- 地域学校園の『「ゆずっ子」の学びの5つの約束』を地域学校園学力向上部会で再確認して実践するとともに、「話し合う力」・「論理的に考えて話す力」の育成を心がけ、学習の基盤を育てる。

■ 3 生徒指導

①「基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成

- 日頃からあいさつの大切さや適切な態度について考える機会の充実を図るとともに、生徒会活動を中心とした学校全体での「あいさつ運動」や、地域協議会と連携した「元気なあいさつ・ていねいな言葉づかい運動」の推進に努める。
- ・機会を捉えては、きまりやマナーを守って生活することの大切さや、誰もが気持ちよく生活するために自分がすべきことについて考えさせることなどを通して、規範意識を高める。

②一人ひとりに寄り添った支援の充実

- ・生徒指導係会や教育相談係会等を定期的に行い、支援を要する生徒についての情報共有を図るとともに、一人一人のニーズに応じたきめ細かな支援の充実に努める。

③「『宮っ子心の教育』の推進」

- ・学校における体験活動・読書活動、及び道徳科の授業の充実を図る。学級の掲示物作成に際しては、一人一人の所属感・自己有用感を高めるように工夫する。

■ 4 健康（体力・保健・食・安全）

- ・自転車通学の生徒が多いことから、登下校指導などを通し交通ルールを守ろうとする意識を高める指導を、全教職員共通理解のもと推進する。

①「食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育指導の推進」

- ・お弁当の日、地域食材を生かした給食メニュー設定（行事食・地産地消等）、小中で連携した指導（食事マナー・衛生等）を充実させる。

②「健康診断の結果を踏まえた地域学校園として連携した保健指導の充実」

- ・視力改善（維持）に向けた指導（デジタル機器による影響への対策等）を行う。

③「域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化」

- ・保健体育科、部活動等における基礎体力の向上を目指した取組を行う。